

# 資料4 住民ニーズの多様化・高度化に対応した 地域資源との関わりについて(論点案)

# 住民ニーズの多様化・高度化に対応した地域資源 との関わりについて(論点案)

資料4

## 【検討の前提】

- 住民のライフスタイルの多様化やICT(情報通信技術)の進展等により、地域住民の保健に関するニーズの多様化・高度化が進んでいる。
- 同時に、生活習慣病対策の観点からは、食事・運動等の住民の生活習慣の改善・維持が重要な課題となっており、個人による取り組みを進めるだけでなく、地域や学校・職場等での日常生活を通じて取り組みが促進されるまちづくりが重要である。
- 住民の生活習慣の改善・維持を推進する取り組みにおいて、地域のソーシャル・キャピタルとの関わりの重要性が指摘されている。さらには、ソーシャルキャピタルの活用や醸成を通じてまちづくりに発展させている事例も報告されている。

## 【論点案】

○保健所・市町村保健センター等は、ソーシャル・キャピタルの「場」と積極的に連携を図り、住民主体の取り組みを推進する必要があるのではないか。また、積極的に既存のソーシャル・キャピタルを発掘するとともに、新たなソーシャル・キャピタルを醸成することも重要ではないか。

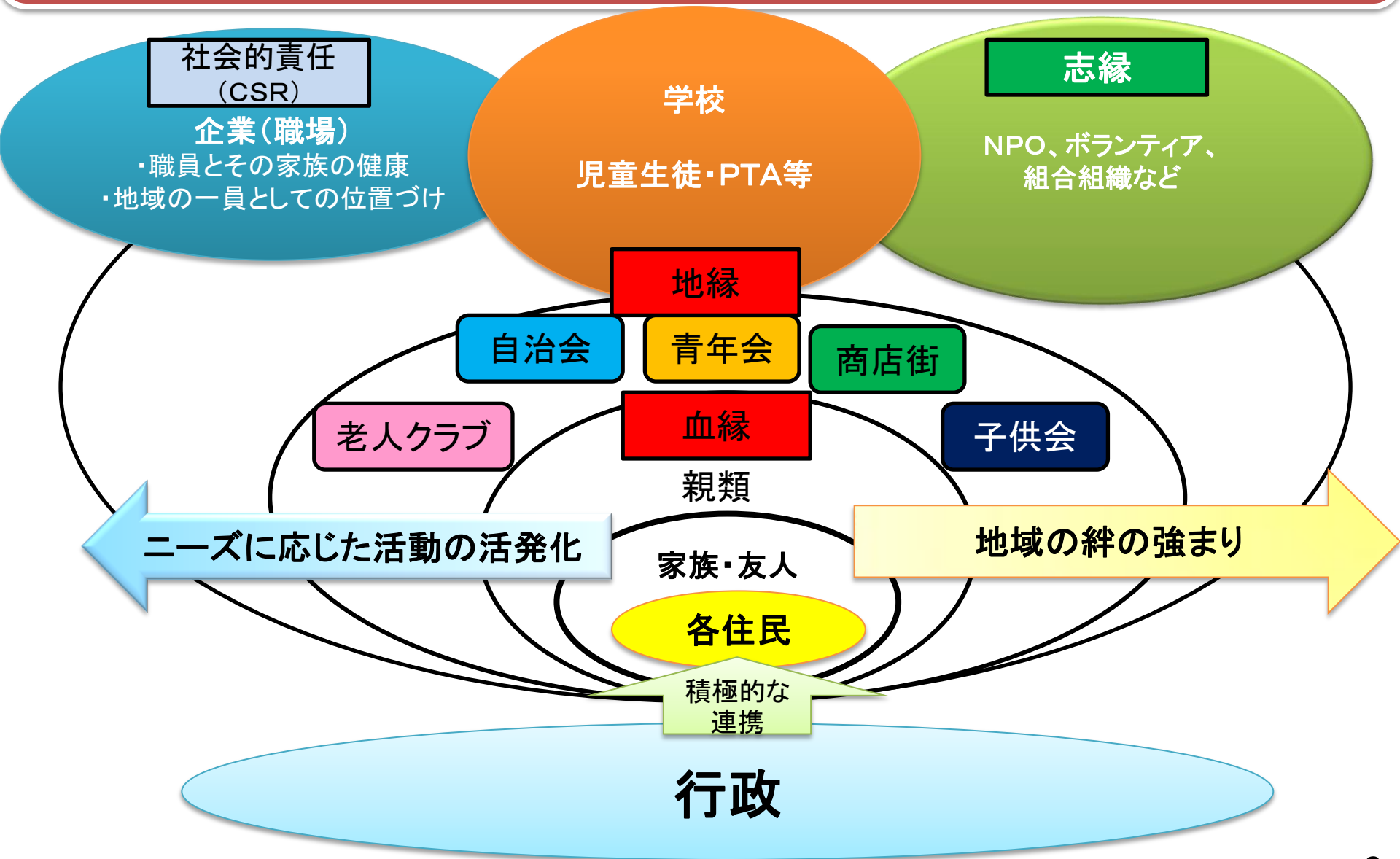
《 ソーシャル・キャピタルの「場」の例 》

- ・住民の生活の場である地域コミュニティー(自治会、老人クラブ、子供会、趣味などを通じたサークル等)
- ・児童生徒の活動の場であるとともに、保護者や地域住民との交流の場でもある学校
- ・労働者等の健康管理を担うとともに、地域社会への社会的責任を果たすことも求められる企業

○ソーシャル・キャピタルに立脚した活動は、多様化する住民ニーズに合致したものであるだけでなく、地域の絆の強化をもたらす、「健康なまちづくり」という課題への対応策になるのではないか。

# 人と人との信頼関係を基盤にした社会(イメージ)

住民共通の課題である「健康」をキーワードに基盤を形成することにより、日常生活を通じた健康作りが可能に



## 1. ソーシャル・キャピタルとは

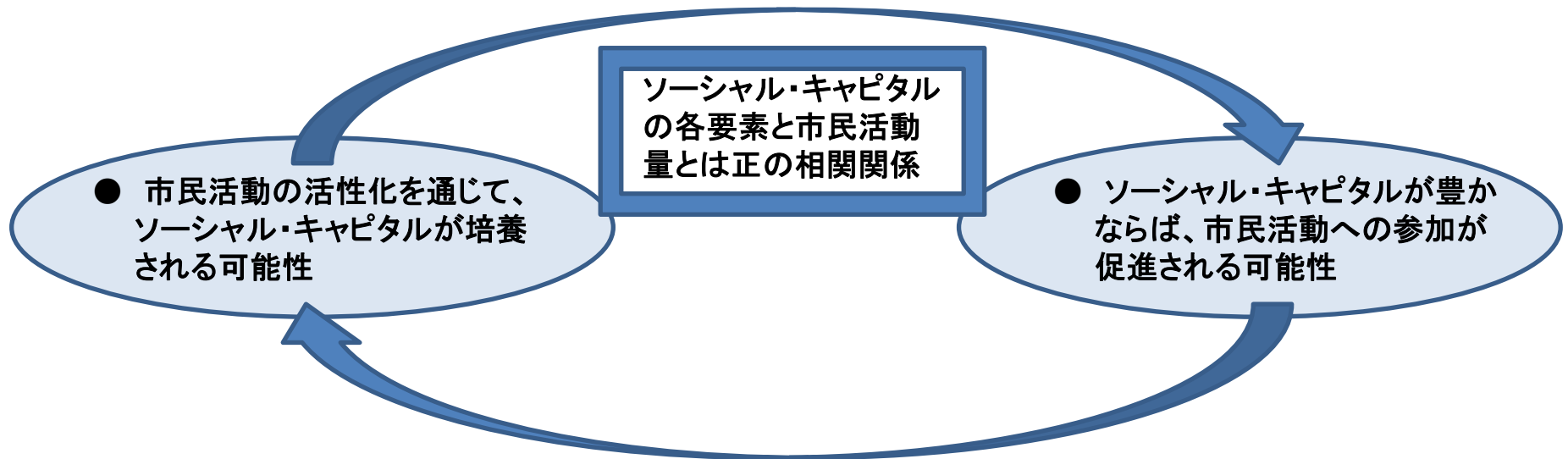
○ 人々の協調行動を活発にすることによって、社会の効率性を高めることのできる、「信頼」「規範」「ネットワーク」といった社会組織の特徴

○ 物的資本 (Physical Capital) や人的資本 (Human Capital) などと並ぶ新しい概念

(参考) 人的資本は、教育によってもたらされるスキル・資質・知識のストックを表す個人の属性

〈アメリカの政治学者、ロバート・帕特ナムの定義〉

## 2. ソーシャル・キャピタルと市民活動との関係



### 3. 欧州におけるソーシャル・キャピタルの状況

#### (1) 欧州(OECD、英国、アイルランド)におけるソーシャル・キャピタルに対する認識

共通認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 政策効果や経済・社会にとって非常に重要なもの</li> </ul>
概念理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 持続可能なコミュニティの構築や地域発展のツール</li> <li>● コミュニティを結束させる潤滑油</li> <li>● 物事をとらえるレンズ</li> </ul>
効果認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 経済成長や社会的イノベーション</li> <li>● 開発や地域のキャパシティ構築</li> <li>● 自主的参加の促進</li> </ul>

#### (2) 英国におけるソーシャル・キャピタルに関する政策提言とその実施状況の例

政策レベル	政策分野・提言された政策	実施状況
個人・ミクロレベル	・家族と子育てへの支援拡大	・条件不利地域でのSureStartプログラム (子育てを行う親に関する支援など) ・家族の支援、親の関心、チャイルドケア戦略
	・メンタリング	・実施している
	・潜在的犯罪者への取り組み	・犯罪者に対するコミュニティ戦略:リハビリテーション ・社会的公正、社会的ネットワーク、信仰 ・若者に対するプログラム
	・ボランティアの促進	・条件不利地域における子どもや高齢者を対象に実施
コミュニティ・メゾレベル	・ICTネットワーク	・ICTにより、取引コストが下がり、信頼を築き、ネットワークが拡大できる。
	・読書グループ、インフォーマルグループに対する支援 ・ストリート文化、カフェ文化の促進	・実施している ・実施している
国家・マクロレベル	・市民教育のさらなる推進 ・コミュニティ・サービス	・活動的な学習者プログラム ・e-Bay 対コミュニティのネットワーク

## 4. 我が国とソーシャル・キャピタル

### 各構成要素における個別指標

構成要素	(サブ指標)	採用する個別指標
I. つきあい・交流	(近隣でのつきあい)	(i) 隣近所とのつきあいの程度 (ii) 隣近所とつきあっている人の数
	(社会的な交流) 単純平均値を算出 ↓ つきあい・交流指数	(iii) 友人・知人とのつきあいの頻度 (iv) 親戚とのつきあいの頻度 (v) スポーツ・趣味・娯楽活動への参加状況
II. 信頼	(一般的な信頼)	(VI) 一般的な人への信頼
	(相互信頼・相互扶助) 単純平均値を算出 ↓ 信頼指数	(VII) 近所の人々への信頼度 (VIII) 友人・知人への信頼度 (IX) 親戚への信頼度
III. 社会参加	(社会活動への参加) 単純平均値を算出 ↓ 社会参加指数	(X) 地縁的な活動への参加状況 (xi) ボランティア活動者率 (xii) 人口一人当たり共同募金額



### 統合指数

(I ~ IIIの個別指数の単純平均値)